

Y03a 天文学を税金を使うことに賛成なのはどんな人？

生田ちさと（JAXA 宇宙科学研究所）

研究者やアマチュア天文家以外の、いわゆる general public が宇宙や天文に関心や興味を示す割合は比較的高い。また、「はやぶさ2」に代表される探査ミッションやロケットの打上げなど、宇宙における人類の活動も注目され、成功した場合には特に、メディアが好意的に報道し、多くの国民から注目され、応援してもらえる。興味を示しているとは言え、天文学の研究に税金を使うことをどのくらいの国民が支持しているのだろうか？また、天文学に税金を使うことに賛成な人々はどのような特徴を持つ人々だろうか？本講演では、インターネットを通じたアンケート調査の結果から前述の疑問について議論する。調査は二段階で行った。最初にスクリーニング調査として、20才以上の各年代、男女別、各1000人ずつ、計20000人を対象に天文学への興味、天文学に税金を使うことに賛成かどうかについて問うた。その後、天文学に税金を使うことに賛成した回答者を対象に、天文学に興味を持つようになったきっかけ、興味を持つようになった年代などの質問を行った。スクリーニング調査の結果、約35%の回答者が税金の1%以上を宇宙に関する研究に使うことに賛成していた。どのくらいの税金を宇宙に関する研究に使うかは、年齢が重要変数であり、(当然ではあるが)宇宙に対しての興味があるかどうかも重要変数であった。宇宙に関する研究に税金を使うことに強い賛同を示した回答者に対して行った本調査から、小学生時期に興味をもった場合が多いと同時に、大人になってからの割合も無視できないほどに高いことがわかった。また、きっかけとして上位3つは、テレビを見たこと、展示を見たこと、観望会であった。